

日本伝道会議 コイノニア研修会 「コイノニアの理念」

2016年6月6日(月)午後1時半～4時半
場所:大阪クリスチャンセンター

伝道会議のコイノニア3

- * 9月27日(火)1時～2時半 全体打合せ
- * (サーバントとサポーターの顔合わせ)
- * コイノニア活動の最終 打合せ
- * 1日目 午後 ライト博士の講演を受けて 夕食を共に
- * 2日目～4日目 午前9時～
- * クリス・ライト博士の講演を受けて
- * コイノニア活動 (トピックは事務局が準備)

伝道会議のコイノニア

- * 日本伝道会議 9月27日(火)～30日(金)
- * 神戸国際展示場・会議場にて
- * テーマは「再生へのRe-Vision
福音・世界・可能性」
- * コイノニアは今回の伝道会議の目玉
- * 全体集会は全てコイノニア形式
- * グループ毎で座り、デスクッションを行う

伝道会議のコイノニア4

- * サーバントはグループ活動のスムーズな割り振り
- * でも、問題や難しさがあった時に
- * サポーターの出番です
- * コイノニア活動が終わった後で、サーバントはサポーターとの祈りの時。
- * 問題がある場合は、共に解決へ、
- * 必要があれば事務局とも連携をサポーターが取る

伝道会議のコイノニア2(組織)

- * 全体で 2000人の参加者
- * 8人1グループ 250コイノニア・グループ
- * 1グループに最低1人のコイノニア・サーバント
- * コイノニアのグループ分けはプロジェクト毎(関心毎)
- * 10人のサーバントに1人サポーター 25人
- * 全体統括を行う コイノニア事務局

コイノニアの基礎1(創造論)

- * 私たち人間は神の像(イメージ)に創造された。
- * 「神は人をご自身のかたちとして創造された。
- * 神のかたちとして彼を創造し、男と女とに創造された。」
- * (創世記1章27節)
- * 三位一体の神に似せて創造された

コイノニアの基礎2(創造論2)

- * 三位一体の神は コイノニア(交わりの神)
- * 神ご自身の中で愛のコイノニアの成立
- * 父なる神は子なるキリストと聖霊を愛し、
- * 子なるキリストは 父なる神と聖霊を愛し、
- * 聖霊なる神は 父なる神と子なるキリストを愛している。
- * 愛による自立が成立している。
- * 「神は愛である。」Iヨハネ4章8節

コイノニアの必要性2

- * 家庭で子どもが育つ上で、愛の交わりが必要
- * 人格的な触れ合いと信頼関係の育成
- * 教会の中で、新生したクリスチャンは
- * 信仰に成長するために、教会の交わり(コイノニア)の中
- * 中にあることが大切

コイノニアの基礎3(創造論3)

- * 神の愛は神ご自身の中で留まらずに人間に(被造物)に注がれた
- * ヨハネ3章16節「神は実にそのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」
- * 他者へ、外へと流れ出して行く、アガペーの愛

コイノニアの必要性3

- * 人の墮罪により神の造られた愛の交わりは壊された
- * 罪のため、力による支配、人間的な権威によって
- * 人間関係が構築される
- * 十字架の救いの必要

コイノニアの必要性1

- * 教会は 神によってこの世から呼び出された者たちの集まり。
- * だから、十字架の救いが必要
- * 救いは 瞬時的であり、継続的、
- * 新生経験を受けた人が育って行く、神の家族
- * この集まり(エクレジオラエ)で大切なのは
- * コイノニア(愛の交わり)

コイノニアの必要性4

- * コイノニアの破壊の現実 墮罪の現実
- * 創世記3章
- * ここで、神と人との交わりが破壊され、
- * 人は霊的に死んだ
- * 同時に、人間関係も破壊されて、男と女の関係が
- * 愛に基づく関係から、力に基づく関係に変化した。
- * 愛に基づくコイノニア(交わり)が破壊された。

コイノニアの必要性5

- * 教会の中の 問題のほとんどが
- * 人間関係の問題 信頼関係の問題ではないでしょうか？
- * そして、多くの場合、力関係と、プライドの問題がそこにかからんではないでしょうか？
- * これが私たちの教会の中の罪の現実ではないでしょうか？

コイノニアの現実2

- * ビレモン書6節
- * 「あなたの信仰の交わり(コイノニア)が生きて働くものとなりますように。」
- * パウロは、ビレモンとオネシモの間に入って、
- * 罪によって破壊された、コイノニアをキリストの
- * 十字架に基づく、赦しと和解による回復へと導いている。
- * これが教会の中で、なされる時に傷ついている教会と
- * クリスチャンの大きな慰めとなるのではないか。

コイノニアの必要性6

- * 私の教会で、教会を去る方は、自分が教会にいつらくなるのか(罪の問題)
- * 会員や牧師との関係性が悪化して教会を去る
- * そこに注がれているのが 神の恵み:キリストの十字架の恵み

コイノニアの基礎1

- * コイノニアの基礎は与えられている。 神さまから
- * 同じものを持っている。
- * 聖書から 私たちが与えられているのは
- * 「からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父なる神は一つです。」(エペソ4章4～6節)
- * 主によって、一致の土台は据えられ、コイノニアの土台は与えられている。

コイノニアの現実1(救いの神学1)

- * キリストの十字架は 和解の福音
- * 1 神と人との和解 交わりが回復する
(Ⅱコリント5章18節)
- * 2 人と人との和解 愛の関係性の修復(ビレモン書)
- * この両面に十字架の恵みと救いもたらされていることを覚えたい。
- * これが教会や教団という現場にもたらすインパクトの大きさ
- * 教会の中ですばらし恵みが与えられると信じている。

コイノニアの基礎2

- * コイノニアは意識して育む必要がある。
- * 一致を保つために、これを土台にして、
- * 求められる態度があります。
- * 「召しにふさわしく歩みなさい。
- * 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛を持って互いに忍び合い、・・・」(エペソ4章1～2節)

コイノニアの基礎3

- * 大切なことは、自分を押しえて、あるいは自分を明け渡して、キリストの愛に満たして頂くこと。
- * これがコイノニアを維持するために必要なこと
- * 自分ではなく、主イエス様が中心
- * 自己中心性(罪)が出てくる時に、コイノニアは崩れる

コイノニアの方向性1

- * コイノニアの方向性
- * 交わりはどうしても内向きになりがち。
- * でも神の愛は交わりの外に向かう(アガペーの特色)
- * 私たちキリスト者のコイノニアも 滅びる人々へ向かう
- * 伝道へと向かわなければ、真のコイノニアとはなり得ない。

コイノニアの育み1

- * コイノニアは
- * 「あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですが、互いに心から熱く愛し合いなさい。」(1ペテロ1章22節)
- * お互いをキリストの愛によって受け入れ、互いの罪を赦し、お互いの霊的な建て上げのために励まし合い、祈り合い、また、お互いがお互いに霊的にも実際的に支え合うことにより、交わりが実のあるものとなってゆくことである。

コイノニアの方向性2

- * ビリビ3章10節
- * 「キリストの苦しみにあずかる(κοινωνία)こと知って」
- * キリストの十字架の苦しみ、救いの成就のための苦しみ、パウロがビリビの教会で味わった、迫害が
- * キリストのコイノニアに加わっていること。
- * 十字架を負ってわたしについて来なさい。(マタイ16章24節)
- * これがキリストのコイノニアです。

コイノニアの育み2

- * コイノニアが育まれること
- * 個人の霊性が育まれること。 建德的
- * 教会全体が育まれること。 エペソ2章21-22節
- * 「この方において、組み合わせられた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、このキリストにおいて、あなたがたともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。」

コイノニアの方向性3

- * キリストの愛の苦しみに加わることの幸い
- * コイノニアに加えられていることを喜ぼう
- * 私たちが召された使命に行き、この世にあって、キリストの愛と十字架を担う使命、キリストの福音と救いをこの世にもたらし、交わりに召されていることを覚えたい。
- * 人々の救いこそが主イエスの御心であることを覚えたい。

コイノニアの取り組み1

- * コイノニアの言葉の中心的な意味(言語的意味)
- * 「参与すること。」加わることに意味がある。
- * 主の十字架と救いの働きに参与することがコイノニアの中心
- * これらのことを踏まえて、伝道会議でもコイノニアに取り組みます。
- * 受動型――→参加型へ
- * 内向きの教会会議――→外向きへの伝道会議へ

分かちあって下さい

- * コイノニアの意味をどのように感じましたか？
- * コイノニアの営みにどのような可能性を感じますか？
- * 内向きの交わりから伝道を目指した交わりが教会の中に始まったなら、教会はどのように変化するとお思いになりますか？

コイノニアの取り組み2

- * 交わりの深化を目指します。
- * フォーマルコイノニア ―→インフォーマルコイノニア
- * 伝道会議 から 普段の交わりへと繋げるコイノニア
- * 一つの教団・教会から、日本の伝道のために
- * 主イエスから与えられた使命を果たすために
- * 共に祈り合い、知恵を出し合い、力を出し合う
- * 宣教協力ができるのでは？

コイノニアの取り組み4

- * コイノニアの交わりを通して、
- * 体験することで、先生方が主にある楽しみ・喜びを経験し、それを教会に持ち帰って、教会が祝されます様に。